

Japan Coast Guard Journal [海上保安庁情報誌]

# かいほジャーナル

【特集】 変わりゆく三河湾の安全・安心を担う  
三河海上保安署

vol. 57  
2013 winter



愛します! 守ります! 日本の海

海上保安庁

JAPAN COAST GUARD



# CONTENTS

## Vol.57

### Japan Coast Guard Journal

表紙



三河海上保安署の職員

## グラビア

- 小笠原諸島 西之島南南東に新島を確認 依然として噴火活動が続く..... 1
- ポーランド人冒険家の手漕ぎボートを曳航救助..... 1
- 「こじま」世界一周の遠洋航海を終え帰港..... 2
- 大船渡市立第一中学校 生徒来訪..... 2
- 海上保安官が携帯する証票が変わりました..... 3
- 台風被害を受けた伊豆大島における災害対応..... 3

## 【特集】

変わりゆく三河湾の安全・安心を担う

# 三河海上保安署..... 4

- 一人三役は当たり前、三河海上保安署の底力!
- 治安維持と海難防止 外国船舶への立入検査の現状
- 三河湾を守る巡視艇「ひめかぜ」



巡視艇「ひめかぜ」

## トピックス

- 管区バージョン・ご当地バージョン  
「うみまる」と「うーみん」の紹介..... 10

## NEWS FLASH..... 12

## INFORMATION..... 裏表紙



©JCGA

うみまるとうーみん



# 小笠原諸島 西之島南南東 に新島を確認 依然として噴火活動が続く



11月20日(水)、小笠原諸島の海域火山である西之島の南南東約500メートル付近の海上に、直径200メートル程度の新島が出現し、黒色の噴煙を上げている様子を海上保安庁の航空機が確認しました。

噴火活動は12月1日現在も続いており、今後島として存続するか、継続的に観測を行うとともに、付近を航行する船舶の安全確保のため、航行警報を発出して注意を呼びかけています。



# ポーランド人冒険家の 手漕ぎボートを曳航救助



7月21日(日)、午後4時50分、宮城県金華山の南東約330kmの海上で遭難した手漕ぎボート「PANISTA」から第二管区海上保安本部に救助要請があり、宮城海上保安部所属の巡視船「くりこま」が現場に急行しました。

「くりこま」は木の葉のように揺れるボートから乗船員1名を救助し、その後曳航ロープを取付け、約330kmに及ぶ遠距離を36時間かけて曳航し救助を完了しました。



# 「こじま」世界一周の 遠洋航海を終え帰港



8月9日(金)、練習船「こじま」が総日数95日間の世界一周の遠洋航海を終え、多数の教職員及び家族が出迎える中、海上保安大学校(広島県呉市)に帰港しました。

実習生は、遠洋航海を通じて、船舶の運航

及び海上保安業務に必要な諸訓練を行うとともに、各寄港地では各国の海上保安事情を学び、施設見学やレセプション等の交流によって国際感覚を磨き、たくましさを増し、大きく成長しました。



# 大船渡市立第二中学校 生徒来訪



9月5日(木)、岩手県大船渡市立第一中学校の生徒5名が、修学旅行に合わせて自由研究のために海上保安庁を訪れました。

生徒たちから震災時の様子や大船渡市の現状、復興への取り組みについてスライド等で説明を受けるとともに、大漁旗を東日本大震災における当庁の活動に対するお

礼としていただきました。

当庁においては、鈴木海上保安監のほか東日本大震災当時、第二管区で業務に当たった職員がこの訪問に対応しました。

後日、本庁訪問時の写真やその記事を掲載した海上保安新聞を釜石海上保安部から同校に届け、返礼をしました。



**海上保安官の**

**新しい証票です**

平成25年10月1日から海上保安官の身分を示す「証票」が変わります。  **海上保安庁**  
JAPAN COAST GUARD

これまでの証票



海上保安官の身分を示す「証票」のデザインを、海上保安庁が発足した昭和23年以来65年ぶりに抜本的に変更しました。

新しい証票は、10月1日(火)から現場業務に当たる全国の海上保安官が携帯しています。



**海上保安官が携帯する証票が変わりました**



**台風被害を受けた伊豆大島における災害対応**

10月16日(水)、台風26号により、伊豆大島では土砂災害が発生し、多数の住民が行方不明となりました。海上保安庁では巡視船や航空機、潜水士等を派遣し、行方不明者を捜

索するとともに、日本赤十字社医療チームや医療資機材の輸送を行いました。

27日には、伊豆大島を訪れた安倍総理大臣に海上での捜索状況等を説明しました。

# 変わりゆく三河湾の 安全・安心を担う 三河海上保安署



新庁舎となった三河海上保安署



三河海上保安署 榎元署長

愛知県の東側に位置し、渥美半島と知多半島に挟まれた三河湾。

この湾奥部に位置する三河港は、平成9年に港則法による田原港、豊橋港及び蒲郡港の合併によりできた港で、中部経済圏の活発な基幹産業を支える物流拠点であり、国際自動車特区として指定を受けた世界有数の自動車港湾であるため、国内外から自動車運搬船など多数の船舶が入出港している。

また、湾一帯は、三河湾国定公園に指定された豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれ、漁業活動、マリッジジャーやイベントが盛んに行われている。

近年、国際港湾として発展していった三河湾だが、この海域の海上の安全・安心を守るため、時代とともに変化していった三河海上保安署を訪ねた。

取材文／石川雅幸(エタクリイ)

## 災害に強い新たな拠点

### 「三河海上保安署」完成

三河海上保安署には、署長以下7名の職員が勤務し、C・L型巡視艇「ひめかぜ」が配備されている。

今年8月8日に、三河海上保安署は新たに完成した豊橋港湾合同庁舎別館に移転したばかりだ。地震や津波等の災害時も、海上保安業務が維持できる機能を設け、24時間体制で海上の治安維持と地域の安全を守っている。

新庁舎となる別館は、本館と渡り廊下でつながり、自然採光に配慮した造りや太陽光発電等の自然エネルギーを活用した庁舎となっている。災害時における電力の確保と、平常時には省エネルギーの促進を目指している。

津波高潮に対する浸水対策として、1階床レベルは周辺地盤より約1m高くしている。

仮に浸水した場合も機能が維持できるように、1階は倉庫などの無人部屋、2階以上には執務室、3階に非常用発電設備、屋上には貯水槽、地下には排水層を設け、ライフラインが途絶えても活動が維持できるのが特徴だ。

想定される東南海地震に備え、職員二人が地域との連携に取り組み、災害時にはより正確な情報を提供できるようにしていきたいと榎元署長は語る。

## 三河海上保安署設置に至るまで

蒲郡港は、昭和41年4月、関税法により開港したが、それまでは蒲郡港を含む三河湾一帯は衣浦海上保安署が管轄していた。

蒲郡市では市をあげた町おこしの一環として、マリッジジャーや海に関するイベントの普及に努めており、これにより蒲郡港にプレジャーボートなどが利用するマリナーが多く集まることとなった。

さらに、開港とともに国際貿易港に指定されたことで、木材を運搬する外国船舶が増加することとなった。

このように、衣浦海上保安署だけでは広い管轄区域内で発生する様々なニーズに迅速かつ適切に対応することが難しくなったため、開港にあわせて、蒲郡海上保安署が新たに設置された。

元来、蒲郡海上保安署では、犯罪の捜査や海難救助等の業務が主に行われていたが、船の出入港が増加するにつれ、自然と豊橋地区

に業務が移行していった。

大きな要因として、東海地方で300万台ほどある自動車の輸出货量のうち、名古屋港に次ぐ全国で2番目の取扱いがある三河港では、豊橋地区、田原地区に自動車関連産業が集中しているからだ。

また、豊橋市周辺市町村が、地震災害対策強化地域に指定されているため、行政課題への対応もより求められることとなったが警察、税関、地方自治体等の機関のほとんどが豊橋地区にあるため、蒲郡海上保安署では連携が取りにくい状態が続いていた。

このような状況下、米国同時多発テロの発生を契機として顕在化してきたテロの脅威への対応や国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律への対応も加わり、密航密輸の潜在事犯への対応、防災体制の構築等の海上保安業務を処理する体制を確保し、管轄区域における海上保安業務の執行体制を強化し、今後増加する海上保安業務に適切に対応するとともに、近隣の関係行政機関等と円滑に調整を行うため、平成21年10月1日、保安署の位置を「蒲郡地区」から「豊橋地区」に移転した。

「蒲郡地区」、「豊橋地区」、「田原地区」の旧国名地名である「三河」を保安署名として用いた三河海上保安署が業務を開始し、豊橋市、蒲郡市、田原市、豊川市及び西尾市幡豆町の4市1町計人口71万人の区域を管轄している。関係機関との連携が強化された地域密着型の海上保安業務が遂行されている。

業務開始当時は、プレハブ造りの庁舎であったが、今年、災害に強い庁舎として生まれ変わった。



地域防災対策官  
村松 俊臣 (39)

平成24年10月に新設された地域防災対策官として、三河管内で抱えている豊橋市、蒲郡市、豊川市、田原市と連携し、地域防災計画への参加、防災訓練等を実施している。  
地域の方には、地震・津波への防災対策、自助力を身につけるための講習会を実施、被災時においては各地域で正確な情報を取得するため、日々の人間関係構築を怠らないよう心がけている。  
また、巡視船「みずほ」で6年間培った救急救命士の経験を活かし、海難防止活動では、常に相手への伝え方を工夫しており、救命胴衣の着用指導においては、「帰りを待つ家族や子供、大切な人のために」との強いメッセージを込め訴えている。  
「地域防災担当官として、一層精進していきたい。」



港務係長  
岡田 和也 (42)

平成25年4月から港務係長として、港長業務(港内における工事、作業及び行事等を行う場合の港長の許可事務)、港内の船舶交通の安全及び整理、プレジャーボート等を対象とする海難防止活動の実施を行っている。  
三河管内はマリネリジャーが盛んで、マリナーが多数設置され、年間約60回にも及びヨットレースや、花火大会の行事許可業務が多いという。  
最近では、工場から出る鉄くず等を集めた金属スクラップを積載した貨物船から火災が起こるケースが増加している。陸上での仕分けが重要となるのだが、中々徹底されないため、企業や船舶への注意を促すことに力を注いでいる。  
「一つでも多くの海難を減らすために努力を積み重ねていきたい。」

一人三役は当たり前前、三河海上保安署の底力!



警備救難係長  
鬼頭 拓哉 (39)

平成25年4月から警備救難係長として、三河管内の警備救難業務を行っている。7名という限られた陸上勤務者なので、救難業務では救急救命士の経験を持つ村松さんの存在は大きい。  
密漁の取締においては、三河湾の名産であるあさりや、一般人が「まんが(じょれん)」という鉄製のツメのついたカゴで捕獲するといった密漁が後を絶たない。また暴力団が関与している潜水器密漁も発生し、検挙している。  
「三河湾は豊かな漁場が多く、地元漁業者からの密漁取締りに対するニーズは高い。それに応えられるように的確に対応していきたい。」



警備救難係  
鈴木 浩孔 (31)

平成23年4月から勤務。海上環境の取締りでは平成24年に参加した分析研修での経験を活かし、夜間巡回時に、工場から出る排水が基準値を超えているものを発見し、三河海上保安署一丸となつての捜査に携わる。その際、最も重要だと感じたことは「下準備(内偵)」、これが活かされ検挙につながった。分析研修に参加できたことが大きな転機になっているという。  
三河湾は閉鎖された海域であり、違法な工場排水が排出されると三河湾内の海洋環境、特に豊かな漁場へ大きな打撃を与えてしまう。  
「海の世界を守ることは、地域にとって重要な意味を持っているため、今後工場等の監視を行っていきたい。」

# 治安維持と 海難防止

外国船舶への立入検査の現状



中国船の立入検査の様子



スクラップ火災船の消火活動にあたる巡視艇「ひめかぜ」

自動車産業が盛んな三河湾では、金属スクラップを船舶に積み込む際に積荷のスクラップから火災が起る事実が多く発生した。11月上旬、金属スクラップ荷役中に火災が発生した事案に巡視艇「ひめかぜ」が対応し、消火活動を行っている。  
今回、金属スクラップを荷役する中国船への立入検査に同行して取材した。



## 小さな積み重ねが、 治安維持への近道

「立入検査開始する。かかれ。」巡視艇「ひめかぜ」川口茂紀船長の号令とともに、4名の職員が中国船に乗り込む。マスクと手袋、ヘルメットを着用、立入検査資機材を携行し、中国船へのデッキへ一歩近づいて行く。

国際取締官の矢田敏行さんが、流暢な中国語で中国船船長に立入検査を行うことを説明していく。

立入検査では、通常、船舶に搭載されている法定書類や備品のチェック、密航・密輸などのおそれがないかなどを確認し、違反事項の有無を確認する。

さらには、船舶が近隣諸国へ入港した形跡があるようであれば、警備上把握しておくべき情報の収集なども行う。



川口船長からの指示をメモする児島機関士補

今回、立入検査を実施する船舶は、日本で金属スクラップを積み込み、韓国へ運搬する船舶である。

鉄鋼・アルミニウム等が混在する大量の金属スクラップを船に積み込む場合、金属同士の接触による火花や、発生する金属粉が要因となる火災の発生も少なくない



国際捜査官としての力を発揮する矢田国際取締官



エンジンルーム内の確認

ため、前述した確認に加えて、スクラップ火災を事前に防止するための安全指導も同時に行う。

立入検査が開始されると、船員の立会いのもと、船内の調査が行われた。

船橋では、法定書類及び、備品の確認、エンジンルームや倉庫では少しでも空間があつた場合、不審な物、人が隠れていないか、細かく確認をしていく。

船内の確認が終了すると、三河海上保安署が作成したチラシを使って、スクラップ火災防止の安全指導を行った。

矢田国際取締官と中国船船長のやり取りは終始スムーズに行われ、安全指導の内容もよく理解してもらえたようであった。



国際取締官  
矢田 敏行 (27)

### 「外国人とのコミュニケーションを大切にしています」

三河海上保安署で3年目を迎え、語学研修で身に付けた中国語を活かし、外国船舶に対する警備救難業務、航行安全業務を行っています。

1年目は外国人に対しての不安でいっぱいでしたが、先輩と行動を共にすることで、多くの経験をする事ができ、その経験を活かし自分なりに工夫しながら業務をこなしてきました。3年目に入り、一人で通訳を行うことで、より責任感が増しています。

実際に話をすると、特殊な単語や方言で戸惑いもありますが、コミュニケーションを大切に外国人との距離を縮める努力をしています。次は英語にもチャレンジし、今後も自分の能力向上のために努力をしていきたいと思っています。



スクラップ火災注意のチラシを手渡し、中国船船長に説明する矢田国際取締官

# 三河湾を守る 巡視艇「ひめかぜ」



## 三河湾の特性を把握して対応

三河海上保安署に配備されているC型巡視艇「ひめかぜ」。特定港、三河湾の警備救難業務、航行安全業務をはじめとする幅広い分野に携わり乗組員をリードする青木和行船長。



巡視艇「ひめかぜ」 青木 和行 船長

「ひめかぜ」は事案に365日対応できるよう2クルー制度が導入されている。

三河湾は、漁業が盛んであり、特にあさはり是全国でも有数の出荷量を誇るが、その一方で稚魚を含めた密漁も多発しており、これを放置すれば、漁業秩序だけでなく、水産資源保護にも大きな影響を及ぼすこととなる。そのため、乗組員は陸上からも巡回し、胴長を履いて取締りを行うこともあるという。

また、蒲郡地区を中心に数多くのマリナーが存在し、マリンレジャーが盛んな三河湾も夏場になると管内北部の沿岸及び三河大島周辺海域は、多くの水上オートバイ

が行き交い海難発生率も高まる。

プレジャーボート、漁船、大型船が行き交う三河湾の海難対応は、夏場のピーク時には「ひめかぜ」だけでは対応できないこともあるため、地道なバトロールと安全指導の継続によって、事前に海難を防ぐことが重要となってくる。

自己救命策3つの基本（連絡手段の確保、ライフジャケットの着用、海のものもは118番）が記載されたメモ帳や、クリアファイル等を安全指導時に手渡し、日頃からの意識付けと安全運航への協力を呼びかけていた。



関係書類の確認と注意喚起を行う

## 知識と技術の向上を目指して

第四管区海上保安本部では、救難防災に對しての知識向上や技術取得のため、若手職員的能力強化に取り組んでいるという。



救難防災訓練指導官による訓練

大量退職大量採用に伴う若年齢職員の増加により、現場能力の低下が叫ばれるなか、海難及び海上災害への対応能力の維持強化を図るため、第四管区海上保安本部では昨年「救難防災訓練指導官」という独自の制度を取り入れている。

救難防災に関する知識や技術を有する潜水士等を訓練指導官に指名し、部署・船艇等の職員に対して知識付与及び技術指導を行っており、三河海上保安署では青木船長と村松地域防災担当官が指導官となり若手乗組員の育成に取り組んでいる。

とはいえ、多忙な業務とのバランスが難しく、中々取り組みが進まない現状か

ら、冬場に訓練を強化できることを願っている。

「基礎を繰り返し行い、現場で対応できる知識と技術の向上を目指してほしい」との青木船長の熱い思いは若手乗組員にも伝わっていると感じた。

入庁4年目、機関士補の児島力さんは、海上での仕事にやりがいを感じている。警備業務に関する知識を身につけ、今後様々な経験を積んでいくことにより誰にも負けない頼れる海上保安官を目指している。

今回は、三河海上保安署、巡視艇「ひめかぜ」を取材したが、職員一人一人が多くの業務を兼務していることがわかった。



航海士補  
稲垣 皓士  
(21)



巡視艇「ひめかぜ」 児島 力 機関士補

少人数だからこそ、連携がしっかりと取れており、チームワークの高さが伺えた。新庁舎も完成し、多様化するニーズに対応すべく、彼らの活躍が求められる場は計り知れないだろう。

「向上心という言葉が好き。仕事を楽しんでいます」

専門学校の先輩の勧めで、昨年の5月に海上保安学校の試験を受け、10月に海上保安学校に入学しました。

今年9月に卒業、赴任したばかりで、覚えることが多く大変ですが、一日一日が新鮮です。

「ひめかぜ」に乗船させていただいたのは良かったと思います。色々な業務に携われること、そして、先輩方から多くのことを学ぶことが出来ています。

初級鑑識資格を取得し、犯罪捜査に取り組みたいです。何事もやる気が大事、前向きに頑張っていきたいです。



プレジャーボートの乗組員に注意を呼びかける「ひめかぜ」乗組員

# 第六管区 海上保安本部

第六管区  
海上保安本部

桃太郎に扮する  
「うみまる」

岡山県

広島航空基地

水島海上保安部 玉野海上保安部

広島県

尾道海上保安部

広島海上保安部

第六管区海上保安本部  
呉海上保安部

高松市 高松海上保安部

備讃瀬戸海上交通センター

香川県

来島海峡海上交通センター

今治海上保安部

松山海上保安部

松山市

愛媛県

宇和島海上保安部

さぬきうどんを作る  
「うみまる」



宇和島  
海上保安部



牛鬼と

「うみまる・うーみん」



巖島神社と

「うみまる・うーみん」

©JCGA

## 「うみまる」&「うーみん」の紹介

### 管区バージョン・ご当地バージョン

海上保安庁のイメージキャラクターである「うみまる」・「うーみん」は管区やご当地オリジナルのバージョンがあり、地域の皆様により一層親しんでいただけるように各地で活躍しています。今号では第六管区及び第七管区の「うみまる」・「うーみん」をご紹介します。

**第七管区  
海上保安本部**

**門司**  
海上保安部

宮本武蔵に扮した  
「うみまる」  
佐々木小次郎に扮した  
「うーみん」

対馬海上保安部

仙崎海上保安部

山口県

山口市

第七管区海上保安本部

若松海上保安部

門司海上保安部

関門海峡海上交通センター

福岡市

福岡海上保安部

福岡航空基地

福岡県



**第七管区**  
海上保安本部

外国空母の警備を行う  
「うみまる・うーみん」

大分県

大分海上保安部

大分市

佐賀県

佐賀市

佐世保海上保安部

三池海上保安部

長崎県

長崎海上保安部

長崎市



**唐津**  
海上保安部

唐津くんちの曳山と  
「うみまる・うーみん」

韓国漁船を取り締まる  
「うみまる」

**長崎**  
海上保安部

長崎くんちで蛇踊りをする  
「うみまる・うーみん」

関門海峡と  
「うみまる」



# FLASH



## 四管区

内閣府主催の広域医療搬送訓練に参加  
(8月31日 第四管区海上保安本部)



石油流出事故に備えて石油連盟と  
合同油回収装置運用訓練を実施  
(9月25日~27日 新潟海上保安部)



## 千葉

九都県市合同防災訓練  
(海上訓練)実施!! (9月1日 千葉海上保安部)



## 対馬

高速旅客船事故対策訓練の実施  
(9月13日 対馬海上保安部)

## 八管区



日韓合同捜索救助訓練の実施  
(10月29日 第八管区海上保安本部)



## 対馬

制圧競技会で日頃の訓練の成果を発揮  
(10月25日 対馬海上保安部)



## 姫路

地元小学生をモデルとした  
ポスターでライフジャケット  
着用をアピール!  
(10月10日 姫路海上保安部)



## 呉

平成25年度特修科後期課程の  
入校式を行いました  
(10月2日 海上保安大学校)



## 今治

大下島灯台の一般公開で灯台の仕組みを紹介  
(10月6日 今治海上保安部)



## 舞鶴

海上保安学校入学式を行いました  
(10月12日 海上保安学校)



# NEWS

## 神戸



日本で唯一!ホテル最上階にある  
灯台での「灯台講座」  
(11月2日 神戸海上保安部)

## 八戸



市内ショッピングセンターに  
設置された防災広場で  
業務紹介  
(9月22日 八戸海上保安部)



夜もくっきり!  
牧草ロールで安全標語表示  
(10月3日 根室海上保安部巡視船さるま)

## 浜田



新型巡視船「いわみ」が就役  
(9月27日 浜田海上保安部)

## 鹿児島



大人気!鹿児島航空基地に  
たくさんの職場訪問者  
(10月18日~19日 鹿児島航空基地)

## 福岡



巡視船「やしま」横浜から福岡へ  
(10月25日 福岡海上保安部)

## 那覇



ようこそ!巡視船「おきなわ」  
(10月2日 那覇海上保安部)



### 海上保安協会会長賞

小学生高学年の部  
鹿児島県大島郡瀬戸町立秋穂小学校4年生  
芋高 明里さん



### 海上保安庁長官賞

小学生低学年の部  
鹿児島県奄美市立朝日小学校2年生  
松山 佳真さん



中学生の部  
福岡県福岡市立城南中学校2年生  
大内田 ゆりさん



小学生低学年の部  
鹿児島県指宿市立今和泉小学校2年生  
諸留 愛士さん



中学生の部  
沖縄県那覇市立 石潭中学校2年生  
親富祖 日向子さん



小学生高学年の部  
沖縄県石垣市立平良小学校4年生  
辻川 美羽さん

第14回未来に残そう青い海・  
海上保安庁図画コンクール  
海上保安庁長官賞等の決定(10月25日)

# INFORMATION

～海上保安庁からのお知らせ～



「118番」は海上保安庁緊急通報用電話番号です。



愛します! 守ります! 日本の海